

レベル:L1(都立共通・神奈川の共通問題レベル)

目標時間:18分

満点:100点(自己採点)

次の英文を読んで、あとの各問に答えなさい。[注]の語句は本文のあとにまとめてあります。文中の(A)～(D)は、問4で使う「文を入れる場所」の印です。

- ① Japan has about four million vending machines. That is about one machine for every thirty people — the highest rate in the world. You can find them not only in big cities but also on quiet mountain roads and small islands. They sell many things: hot and cold drinks, ice cream, hot soup, and even fresh eggs from local farms. Many visitors from other countries are surprised to see this.
- ② Why does Japan have so many? First, Japan is a safe country. Machines can stand outside all night, and they are rarely broken. Second, a vending machine needs only a small space and works(①). It never takes a holiday, and it never gets tired. In a country with little space and few workers, this is a big point. A shop needs people, light, and a large building, but a machine quietly does the same job in one square meter. **A**
- ③ Vending machines in Japan also have a long history. The oldest one still kept today was made in 1904. It sold stamps and postcards, and it even had a small mailbox. For many years, however, these machines were not common. The big change came in the 1960s. New one-hundred-yen coins spread across Japan, and people began to carry them every day. Buying a drink from a machine became quick and easy for everyone. **B** Then, in the 1970s, Japanese companies invented machines that could sell both hot and cold drinks in one box. This surprised the world.
- ④ Today, vending machines are getting new jobs. Some of them use solar power to save energy. Others show information in foreign languages for visitors, or let people pay with their phones instead of coins. On a hot day, some machines choose cold drinks and show them first. In some towns, machines quietly watch the street with cameras and help keep the area safe at night. **C**
- ⑤ Of course, there are problems, too. Vending machines use a lot of electricity, and the bottles and cans they sell can become street trash. Companies are working hard on these problems. New machines use about half the electricity that machines used twenty years ago, and recycling boxes now stand next to most machines. **D** Vending machines are like small shops that never sleep, and they will keep changing with society. Fifty years ago, they surprised the world with hot and cold drinks in one box. Fifty years from now, they may surprise us again.

[注] vending machine 自動販売機 / rate 割合 / square meter 平方メートル / stamp 切手 / mailbox 郵便ポスト / coin 硬貨 / spread 広まった(spreadの過去形) / solar power 太陽光発電 / electricity 電気 / society 社会

設問 本文の内容について、最も適切なものをア～エから1つずつ選ぼう。

問1(15点) 本文の(①)に入る最も適切なものはどれか。 ア once a week イ in the morning ウ only in summer エ day and night	()
問2(15点) 下線部 this(第①段落)の内容として最も適切なものはどれか。 ア 山道にもあるほど、日本に自動販売機が多く、売り物も豊かなこと イ 日本の自動販売機がこわされやすいこと ウ 外国から日本に来る観光客が増えていること エ 日本の自動販売機の飲み物が安いこと	()
問3(15点) 下線部 rarely(第②段落)の意味として最も適切なものはどれか。 ア いつも イ めったに～ない ウ ときどき エ かんたんに	()
問4(15点) 次の英文を本文中の(A)～(D)のどこかに入れるとき、最も適切な場所はどれか。 They can even work as helpers in an emergency: some machines give people free drinks when a big earthquake happens.(緊急時にはヘルパーにさえなれる——大地震のとき、無料で飲み物を出す機械もある。) ア (A) イ (B) ウ (C) エ (D)	()
問5(20点) 本文の内容と合っているものはどれか。 ア 温かい飲み物と冷たい飲み物を1台で売れる機械は、1970年代に日本の会社が発明した。 イ 現存する日本最古の自動販売機は、飲み物を売る機械だった。 ウ 日本の自動販売機は、20年前より多くの電気を使うようになっている。 エ 自動販売機の数、世界中で減り続けている。	()
問6(20点) この文章のタイトルとして最も適切なものはどれか。 ア How to Buy Drinks in Japan イ The History of Japanese Money ウ Small Shops That Never Sleep エ Problems of Plastic Bottles	()

とき終わったら かかった時間(分 秒)→ 次のページの解説で自己採点 → 得点(/100点) まちがえた問題こそ宝。解説の「誤答の切り方」まで読むと、次の1枚で点が変わる。

解答一覧(まず自己採点)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	得点
エ	ア	イ	ウ	ア	ウ	／100

問1 正解 エ(15点) | 空所補充は「前後の文」が答えを言っている

根拠 直後に It never takes a holiday, and it never gets tired.(休みも取らないし、疲れもしない)、さらに In a country with little space and few workers, this is a big point.(土地が狭く働き手が少ない国では、これが大きな強み)と続く。「小さな場所で済み、昼も夜も働く」からこそ働き手不足を補える——エ day and night が文脈に合う。

誤答の切り方

ア	once a week(週1回)では「休みなし・疲れ知らず」という直後の文とつながらない。
イ	in the morning(朝に)だけ働く機械に強みはない。自販機の便利さは時間を選ばないこと。
ウ	only in summer(夏だけ)——季節の話は本文のどこにもない。勝手に季節を持ちこまない。
エ	day and night(昼も夜も)＝直後の「休みなし」「働き手が少ない国で大きな強み」と一直線につながる。

🔑 この形式のコツ 空所問題は、空所をふくむ文の「前後1文」に根拠がある。選択肢を先に見ず、まず前後を読んで「入りそうな意味」を自分の言葉で予想→それから選択肢と照合、の順が速くて正確。

問2 正解 ア(15点) | 指示語は直前にもどって「代入」して確かめる

根拠 this の直前までに書かれているのは「約400万台・30人に1台で世界一・山道や小さな島にもある・卵まで売っている」。外国人が驚くのはこの状況全体＝ア。代入して「外国人は【こんなに多く、こんなに何でも売っていること】に驚く」——意味が通る。

誤答の切り方

ア	直前の内容(多さ・場所・売り物)をそのまま指せる。代入チェックでも自然につながる。
イ	「こわされやすい」は第②段落で逆のこと(めったにこわされない)を言っている。真逆の選択肢。
ウ	観光客が「増えている」という話は本文にない。visitors という単語だけ拾わせるワナ。
エ	値段の話は本文のどこにもない。書いていないことは選ばない。

🔑 この形式のコツ 指示語(this / that / it)は、①直前の文にもどる → ②候補を指示語の位置に「代入」して読み直す → ③意味が通るか確かめる。この「代入チェック」までやると取りちがえが消える。

問3 正解 イ(15点) | 知らない単語は消さずに「文脈から推測」する

根拠 直前の文 Japan is a safe country.(日本は安全な国だ)が手かかり。安全な国だから、外に一晩中置いてある機械は「めったに」こわされない——と読むと話が一直線につながる。rarely=「めったに～ない」。

誤答の切り方

ア	「いつもこわされる」では safe country(安全な国)と真逆になり、理由の説明がこわれる。
イ	安全→こわされる頻度がとても低い、で前の文と一直線につながる唯一の選択肢。
ウ	「ときどきこわされる」も「安全な国だから」の説明にならない。プラスの内容が必要。
エ	「かんたんにこわされない」だと機械の頑丈さの話になり、「国が安全」という理由とずれる。

🔑 この形式のコツ 入試は「注のない未知語」を毎年出す。①その語をふくむ文の前後の流れをつかむ(ここでは「安全な国だから→?」)②意味がプラスかマイナスかを判定 ③選択肢を代入して確かめる。推測の型を持っていれば、知らない単語は失点にならない。

問4 正解 ウ(15点) | 文挿入は「接続の目印」と「話の流れ」で決める

根拠 挿入文の even(～さえ)は「さらにその上」の目印。第④段落の「新しい仕事」リスト(太陽光→多言語・スマホ決済→おすすめ表示→見守りカメラ)の最後(C)に置くと、even が一番大きな例で段落を締めるクライマックスになる。

誤答の切り方

ア	(A)第②段落は「多い理由」の段落。「新しい仕事」の話はまだ始まっていない。
イ	(B)第③段落は歴史の段落。1960年代の話のとなりに現代の地震支援を置くと時代が飛ぶ。
ウ	(C)「新しい仕事」リストの締めとして自然。even が前の例を受けて「その上さらに」を作る。
エ	(D)第⑤段落は課題と改善の話。「新しい仕事」の例をここにはさむと話が前に戻ってしまう。

🔑 この形式のコツ 挿入文の中の目印(even, for example, however, this など)が「前に何があるべきか」を教えてくれる。①目印を見つける → ②前に来るべき内容を予想 → ③候補の前後だけ読み直す、の3ステップ。全文を読み直す必要はない。

問5 正解 ア(20点) | 内容一致は選択肢を本文と「1対1で照合」する

根拠 第③段落の最終文 In the 1970s, Japanese companies invented machines that could sell both hot and cold drinks in one box. と一致。「1970年代・日本の会社・温冷を1台で」の3点がすべてそろっている。

誤答の切り方

ア	第③段落の最終文と完全に一致する。
イ	最古の機械が売ったのは stamps and postcards(切手とはがき)。飲み物ではない——1文前とのすり替え。
ウ	第⑥段落と矛盾——新しい機械は20年前の「約半分」の電気で動く。方向が真逆。
エ	「減り続けている」という記述は本文のどこにもない。書いていないことは×。

🔑 この形式のコツ 内容一致は「なんとなく合ってそう」で選ばない。選択肢1つずつに本文の該当文を探し、①一致 ②矛盾 ③書いていない の3つに分類してつづす。「書いていない」も×——これが最大のコツ。

問6 正解 ウ(20点) | タイトル問題は「全部の段落をおおう傘」を選ぶ

根拠 第⑤段落の Vending machines are like small shops that never sleep(自販機は眠らない小さな店のようだ)は、①多さ ②理由(昼も夜も働く)③歴史 ④新しい仕事 ⑤課題と進化——全段落をひとことでおおう比喩。本文の結論文が、そのままタイトルの根拠になる。

誤答の切り方

ア	「買い方」の説明はどの段落にもない。drinks という単語だけ拾わせるワナ。
イ	お金(硬貨)の話は第③段落の背景として一瞬出るだけ。一部を全体に見せかける定番のワナ。
ウ	全段落をおおえる唯一の選択肢。結論の比喩＝筆者が一番言いたいこと。
エ	ペットボトルの課題は第⑤段落の一部。傘ではなく、骨の1本にすぎない。

🔑 この形式のコツ タイトル・主題問題は「その選択肢で全部の段落を説明できるか」を確かめる。1つの段落しかおおえない選択肢は、内容が正しくて×——「一部正しい」は「全体の答え」にならない。

本文の設計図(段落メモ)——復習は「1段落1行」でまとめ直すのが最短

①	日本は自販機大国(400万台・世界一の割合・山道にも・売り物も多彩)
②	多い理由＝安全な国＋省スペースで昼も夜も働く(働き手不足を補う)
③	歴史＝1904年の切手自販機 → 1960年代に硬貨が広まり普及 → 1970年代に温冷両用を発明
④	現在＝新しい仕事(太陽光・多言語・スマホ決済・おすすめ表示・見守り・緊急時支援)
⑤	課題(電気・ごみ)と改善 → 結論「眠らない小さな店」はこれからも変わり続ける

もう一段のぼる 同じ題材構成のL2(発展)は、本文が約530語に増え、設問文も英語になる。今日の「誤答の切り方」をもう一度読んでから挑戦すると、初見でも戦える。読むスピードが課題なら速読ラダー、正確さが課題なら精読ラダーで基礎体力を。

先生向け・運用ノート 「早く終わった生徒」のチャレンジ棚に常備するための1枚(本文約410語＝共通問題の大問1本分。本文→設問18分＋自己採点と解説読みで計30分)。まちがえた問題は「誤答の切り方」を音読させると定着が速い。配点は問1～4が各15点・問5～6が各20点(考える段数が多い問題ほど重く)＝自己採点で完結する。